

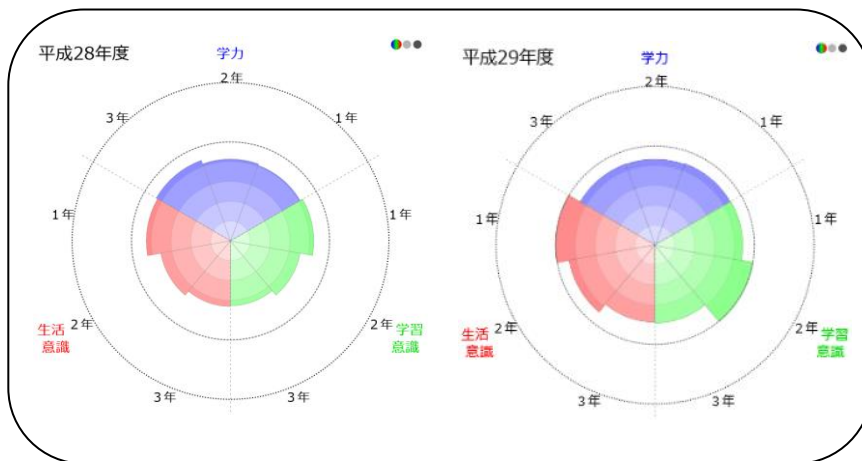
1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
○全職員で「生徒行動目標」を常に意識した学校づくりを目指します。 ・生徒行動目標 授業を大切にする 人の話を聞く 他人に迷惑をかけない	
○「社会の一員として求められる力」を意識した取組を実践します。	
○課題への即時的・重点的な対応の為に関係機関との連携を重視します。	

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標	具体的取組
担当	確かな学力	人の話をしっかり聞き、学校や家庭、地域における学習を大切にするとともに、コミュニケーション能力の向上を目指します。	①授業を大切にする態度の育成と家庭学習の習慣づけを2本柱として、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。②コミュニケーション能力の育成を目指して、教科での言語活動や読書活動を充実させる。③どの生徒に対しても「わかる授業」にしていくために、校内授業研究や小中合同授業研究などを通して教師の授業力向上を図る。
	学力向上委員会 学習指導部 教育課程委員会		



(1) 学力の概要と要因の分析

昨年度と同様に学力については各学年とも市の平均を下回る状況である。ただ、市との差が多少は縮んでいる。また、学習意識、生活意識共に昨年度よりも改善がみられ、この部分が学力の向上に良い影響を与えたと考える。一方で、各教科において、学力層のC層とD層が市平均より多いという傾向は変わっておらず、この層への支援が必要である。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：学習意識が市平均を上回る学年があった。書く能力と知識・技能に課題がある。
- 社会科：学習意識は市平均に迫る学年がある一方で、知識・理解に課題がある。
- 数学科：少人数制の1年生は意識、学力共に高い。課題は2年以降に意識、学力が低下傾向にあることである。
- 理科：全学年で学習意識と科学的思考表現に課題がある。
- 外国語科：学習意識が他教科に比べ低い。また、学力は学年が上がると低下していく傾向に課題がある。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

生活意識は学年が上がると低下する傾向がある。原因としては、「自己意識」の低下の影響が大きい。具体的には、「将来の夢や目標があるか」や「誰かの人の役に立ちたい」などの低下である。学年が上がるとつれてこの項目の数値が低下している。学習意識と学力の向上に関し、自己意識の向上が大切であると考え。この課題に対し、「将来の夢や目標の達成」、「誰かの役に立つ自分」を少しでも感じる学校生活上の工夫が重要である。授業と学校行事などにおいてそれらを意識した工夫が求められる。

3 平成30年度 学年・教科等としての具体的取組

国語

- 漢字の小テストを定期的に行い、確実に力を付ける。各観点での基礎基本の力を身に着ける。
- 言語活動を充実させ、授業中だけでなく実生活で生かせる力を身に着ける。

社会

- 自分の考えを発表できるような授業展開を心がける。(グループワーク・個人発表・ペアワークなど)
- 授業内で資料を適切に読み取ったり、活用したりする場面を増やして活用能力を高める。
- 基礎・基本を大切にし、学力の定着を図る。

数学

- 習熟度別少人数やT・T授業など個に対する指導を行い、基礎基本の定着を図る。
- 基礎的・基本的な知識技能を活用できる場面設定をし、思考力の向上を図る。

理科

- 基礎・基本の定着を図り、思考力や表現力を育む学習を展開する。
- 実験・観察の結果からどんなことが言えるかを考察できるようにする。

音楽

- 歌唱や器楽学習等では、生徒がコミュニケーションを取りながらより主体的に取り組めるようにする。
- 鑑賞領域では生徒一人ひとりが感性を高められるような題材を設定する。

美術

- 横浜版学習指導要領小中一貫カリキュラムに基づいた題材の計画と指導の充実を図る。
- 生徒一人ひとりが主体的に表現主題を追及できるような学習環境を設定する。

保健体育

- 授業の開始時に持久力、筋力、柔軟性を高めるトレーニングを継続的に行い、基礎体力の向上を図る。
- グループ活動を計画的に設定し、リーダーの育成を図るとともに、主体的に取り組むことができる態度を育てる。

技術・家庭

- 小学校や他教科での既習事項や生活体験・興味関心を把握し生徒の資質・能力を踏まえ題材設定を行う。
- 実践的・体験的活動の充実を図る中で、生徒自ら問題解決できるような題材を設定する。

外国語

- AETと話す場面などコミュニケーションを図る場を計画的に設定する。
- 各学年の課題を明確にし、その力を身につけさせるような学習計画を立てる。

道徳

- 道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、考えを深めるようにしていく。
- 物事を多面的・多角的な見方ができるようにしていく。

特別活動

- コミュニケーション能力を育みよりよい人間関係を築かせるために、行事活動の充実を図る。
- 話し合い活動を多く取り入れ、相手の考えや思いを尊重し、協力して問題解決する態度を育てる。

総合的な学習の時間

- 職場を選択する活動を通して自分への気づきを深め具体的な行動につなげて考えるようにする。
- 体験で学んだことを整理分析させて、自己の将来について考えを深められるようにする。

個別支援学級

- 言語環境を整え、言語の関する能力の育成を図る。
- 個別の指導計画に基づき、授業形態や学習集団の構成を工夫し、指導の充実を図る。